



福祉と住環境を考える ふくてっく

2004年5月
第58号

特定非営利活動法人
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F Iビル
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.occn.zaq.ne.jp/fukutech/

今から7年ほど前から、ヨットを始めていたが、助けてくださるボランティアさんの勧めでパソコンで文章を書くようになり、白くなければと、携帯電話を主人公にして「ケイタイマン」と名づけたのです。

まず短いビデオを見ていただきます。これは毎日放送が障害者である私が仕事にしている様子を紹介したものです。この取材がきっかけで今日お話しする小説を出版することになったのです。



ブレインドが書いた小説 「ケイタイマン」 魂の言葉たち

私は、小児マヒで生まれてきました。5、6歳の頃までは特に認識していませんでした。けれども走れば遅いし、体にも特有のねじれが出始め、「なんで」と両親を恨んだこともあり、高校・大学へ行く頃には吹っ切れていました。ある時この近所にあるパチンコ屋で目に違和感を覚えたら、翌朝もう見えなくなっていました。

目が見えないということは大変なこと、それまでの先天性のいわば小さな悩みが、後天性の大きな悩みに喰われてしまっ、もうどうでもよくなってしまうのです。

「ある夕方」

健太は、会社から帰宅途中、マンションの玄関で声をかけられた。ア、よく見かけるおばさんだ。おばさん「すみませんが、あんましてただけませんか？」

健太は首をかしげながら、健太「すみません、私には、その技術はないのですか？」



目が見えなくても、はしを使って食べられるうどんを作りました。どうせなら美味しくなくはなりません。私の話を聞いていただいた皆さんに、私のこだわりのうどん、「うどん双樹」を持参しました。是非ご賞味ください。(記 中北 清)

矢田まちづくり計画フィードバックに参加して

3月20日(土)「NPOふれあい」からの誘いを受けて、矢田まちづくり計画のためのフィードバックに参加した。参加メンバーは杉浦理事長以下総勢9名であった。

午後2時、特養護老人ホーム「花嵐」に集合、隣接するNPOふれあい事務所にて、簡単にこれまでの経緯の説明と参加者の自己紹介を済ませ、早速地域を歩いて探索する。朝からの雨も上がり、気持ちよく行動することができた。

東住吉区矢田地区は、大阪にいくつが残る、被差別部族の一つであった。2002年に同和対策事業特措置法が切れ、いわゆる同和対策事業は終焉したが、そこには特有の課題が残されている。

住宅法の管理に移管されたものである。概して戸当たり規模も小さく、昨今の市民ニーズとの乖離は否めない。結局的に、経済的に自立できる世帯の流出、とりわけ子供が極端に少ない町(将来の町づくりの核となる人の欠如)になりつつある。1975年以来30年もの長きに亘った特措置時代の施策は、地域住民の生活安定には寄与したが、同時にそれへの慣れ、依存は地域に産業を育成することにつながらなかった。

今こそ、この町を産業基盤の確立を含めて依存から自立へと替えていかねばならない。

最後に、こうした町づくりはそこに住む住民だけではできない。半ばはまりこんだリーダーも当然欠かせないが、外部から専門性をもって適切に関わるグループや専門家がどうしても必要であり、長いスパンで協働して欲しいと言われ、我々も大いに心を動かされた一日であった。

住宅改修部幹事の悲しいとき 畑 俊治

- その1 初期診断で対象者(女性)の息子さんと改修の打合せ中「そんなことしてらん!!よけい落ち込むからやめて!!」と言われたとき
- その2 見積を出して「高すぎる!!」と一言
- その3 初期診断のメンバーが集まらないとき
- その4 初期診断に行ったら悠々自適の大金持ちの豪邸。こんな人のために本業の時間をさいて何故ボランティア?
- その5 設計を終え、見積を出して工事スタート直前に対象者が亡くなられたとき
- その6 補助金も出ないため、有志を募って無償で住宅改修。しかしその後、その部屋が全く使われていないと聞いたとき
- その7 初期診断メンバーが依頼主との約束の時間に遅れ、幹事である僕に怒りの電話がはいつたとき
- その8 役所で「こんな手すり補助対象にならない。前例がない」
- その9 助成金申請で1ヶ所押印を忘れてただそれだけのため、わざわざ役所に出向くとき
- その10 対象者担当のケアマネから、住宅改修の内容にさんざん訳のわからないケチをつけられたとき
- その11 よかれと思ってやったバリアフリー。逆に使いにくくなったと言われたとき
- その12 住宅改修方法を皆で討議検討したいけど、人が集まらない、自分も時間がない

精神障害者の地域生活支援

地域の人の理解と受容を



3月定例学習会
平成15年3月6日(土)
医療法人北斗会 理事長
澤温(さわゆたか)氏

り入れられ、1993年の障害者基本法によって、ようやく障害者に入れられた。しかし府の見解では精神障害者が未だに法定雇用率の算定にも加えられていない状況なのである。

精神疾患は、病状がゆるる部分があり、それにもなつて障害が動く。医療はあくまでも病気に対する治療であり、障害による生活のしづらさをどう支援するかという点に取組んでいる。

昔は精神衛生法の時代があり、精神障害者は「狐つき」あるいは「魔女」といつて忌み嫌われ、社会から抹殺される存在であった。この時代、日本では福祉を地域の寺社が担っていたこともあり、欧米に比してやさしい地域社会があったようだ。1900年に精神障害者看護法ができる、警察官の管轄となり、許しを得て家の中で生活できる、すなわち座敷牢に閉

じ込める状態になる。しかし、見方によっては、家族が一生懸命に看っていた側がある。

やがて、地域に出してケアはしないという時代を迎える。1950年に精神衛生法が成立して、やっと治療すべき存在と認められるようになるのだが、この頃の治療はまだ大したものではなかった。本格的な治療薬が登場して地域生活が可能となったのは1952年のこととなる。

私は1987年に才で院長に就任したが、普は2代目というのは創業者が作ってきたものを守るものだが、時代は正にそうした節目に当たり、今こそ創生期という時であったのは思えばラッキーであった。

精神障害者の地域生活支援には以下の4つの要件が全て揃わなければならない。すなわち①住む場所②日中の活動の場とプログラム(働くばかりではない)③サポートする人々とその連携④地域の人の理解と受容の4つだ。

支えられてきた人が支える役割をもつ事で自尊心を高めることができる。地域への理解を得ることにつながる。どのように受容されるかは、地域の事情によるが、大阪という町は墓や精神障害者および高齢者施設を市域外に追い出してきた事実があり、市民に免疫というものが無い。

定例会のお知らせ

日時	6月5日(土) 午後1時30分～5時
場所	大阪市立社会福祉センター会議室
学習会	「ちょっと気になる木の話」
講師	松山 将壮氏
代表	オフィスママ(木材情報コンサルタント)
日時	7月 7月3日(土) 午後1時30分～5時
場所	大阪市立社会福祉センター会議室(予定)
学習会・講師	未定

精神障害者がいるのではない。人がいて、たまたまその方が精神障害者をもってらっしゃる。そのように受け止めてほしい。キーワードは「出会わせる」「ゲリラ的実践」そして「子どもを媒介とする」である。5年たてば理解者になり、10年たてば応援者になる。誠に気の長い闘いではある。(記 中北 清)

★活動報告

こむねつと部

「コミュニケーションビジネスとまちづくり講座」
3月22日(月)
講師 大阪NPOセンター 理事・事務局長 山田裕子氏

私が以前に関わっていたコリアボランティア協会と今のNPOセンターでの活動の違い、それは社会的発信をする(人と関わり、社会を変えてゆく)には、事業をして行かないといけない、そうでないと単なる自己満足に終わってしまうということ。社会変革をもたらしそのNPOであり、企業では応えられない社会的ニーズに応える、そこにNPOの経営ノウハウがあります。

そういう意味で、ふくてっくがコミュニケーションビジネスを目指すということ。そのミッションにても正しい選択です。コミュニケーションビジネスとは、地域や社会の課題を解決するための取り組みをビジネス的手法で展開することです。ですから、コミュニケーションの視点とビジネスの視点を併せもつことになりま

前者は事業主体だけの利益ではなく、コミュニケーションの利益となるような目標設定や事業計画をもつてのことであり、後者は有償で継続して実施される事業であることを求めます。

欧米に遅れて、日本でも日本なりの都市荒廃が生じ始めています。すなわち行政の財政ひっ迫、国際化、若年の失業などが指摘されています。ニュータウンの荒廃や少子高齢化などが目に見える形で登場してきま

は、お金にならない活動やお金にしない活動をビジネス化してゆくことでもあります。市民運動性と事業性を併せ持つということですが、どこか違う光るものが欠かせません。ブランド力がなければビジネス化は成

です。裏を返せば、それだけ社会的関係が希薄になっているということでしょう。

日本における先進モデルの一つからほり倶楽部の活動があります。からほり商店街界隈にある長屋を中心とした歴史のある建物、まちなみを保全すること。および路地裏店舗を含めたとして商店街を活性化することを住民参加のもとに推進してゆくことをミッションとしています。16年前に当地に転入していた六波羅という建築家が、2年前に仲間や地元の方に「空堀の古い長屋、石畳の路地が減ってゆくこと」を問題提起したのが契機となつて、そのミッションに共鳴した人たちがよって始まったものです。

始めは建築家的な発想でしたが、やがてハードからソフトへ、人と人の触れ合う場づくりへと展開しているのです。富山県八尾町の「坂のまちアート」などを参考に、まちなみ保全と商店街活性化を相乗的に両立させようと取り組んでいます。八尾町商工会がさまざまな補助制度を利用しているのに対して、とにかくやりたい人がやりたいようにやっ

(記 中北 清)



研修部勉強会の報告

「住宅改修事例から学ぶ寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の住環境の条件整理・検討・提案」
4月17日(土)にATCで、わくわく研修部会の勉強会として住宅改修事例の検討会が、開かれました。二名の参加で一つの実例

を使って、みんなで意見を交換し、どの様に改善、改良するか?どの様に改善、改良するのが良いか?を検討しました。実例という事もあり、普段勉強会や例題で仮定する諸条件とは違い、実生活の具体的な内容がフェイイスシートにあり、難しい問題が山積みの事例にトライする事になりました。
月例会とは又違う状況でのフリートーク形式で始まり、皆さんハード・ソフトに関わらず初歩的な部分から専門的な箇所まで、内容の濃い一歩踏み込んだ討論(?)が出来たと思います。
・根本的に、住宅改修で対応する事が良いのか? (施設入所も考えて・・・)
・公共福祉サービス、福祉用具を活用する事で、小規模改修で済まないか? (福祉用具商品開発への不満)
・進行性の場合、どの段階での改修にするのか?
・家族関係 (夫婦間、介護協力者)は上手くいっているのか?

・誰を中心に改修を考えるべきなのか? 等々
実例だから出来る本当の話も出て、生々しく又、男性諸氏には耳の痛い(?)内容もありました。
話し合いが進むにつれ、色々な案が出てきて、生活の改善、住宅改修等、一つの案(方向)に直にはまとまる筈も無く、急遽、継続して検討する事になり、次回参加者が本日の内容を踏まえて考える改善、改修案で「設計?コンペをしよう」となりました。(意外な展開へ)
この様に、色々な立場の人達が意見を交わして答を探していく経過、結は非常に大切であり意味あるものだと感じました。これからの問題に、理想でない現実について勉強していければ良いと考えています。
(記 小川 忠雄)

福祉住環境コーディネーター対策講座

～幅広い地域福祉に対応できる人材、活動する人材の育成を目指しています～

高齢者や障害者が住み慣れた地域社会で、当たり前豊かな生活を継続していけるために、必要な住環境のバリアフリー化(ソフト・ハード)を図るために、課題や解決に向けた取組みを進めていく上のノウハウを持った人材が必要とされています。福祉住環境コーディネーターとは、生活者の視点に立ち、福祉・医療・建築・福祉用具など、あらゆる条件を視野に入れて問題解決を図っていく存在です。高齢者や障害者などに関わる人々の専門性を重視しつつ、住環境整備全体をコーディネートする能力を持った人、福祉住環境コーディネーターが必要とされています。
福祉住環境整備について理解を深めるために、福祉住環境に携わる専門職のスキルアップに、福祉住環境コーディネーター試験(3級・基礎知識、2級・応用知識)を受験される方のフォローアップに役立つ講座です。

- 4つのコースを設けました。
A 住環境整備の意義と福祉用具の活用：住環境整備の意義とコーディネーターの役割・福祉用具の活用
B 高齢者や障害者の特性：高齢者の疾患と在宅介護・障害者の特性と在宅介護
C 住環境整備の基本技術：住環境整備の基本技術と手法・住宅建築に必要な基礎知識
D 福祉住環境整備の実践的な考え方：高齢者の住環境整備・障害者の住環境整備
- 1コース・1日・6時間、学びたい講座を選びご参加ください。
開講日時：5月29日,6月12日,19日,26日(各土曜日) AM10:00~PM5:00(食事・休憩時間含む)
会場：住之江区南港北2-1-10 ATC・ITM棟セミナールーム
各コース受講料：¥5,000/1コース(4コース受講する場合のみ¥15,000)
申込・問合せ方法：氏名・住所・連絡先(TEL&FAX・Eメール)を以て希望コースを記入し、FAXにて(ふくてっく・研修部宛 06-6614-6800)ご連絡ください。資料をお送りいたします。



子ども木工教室

生野区民センター

生野区民センターで2月22日(日)午後1時、木工教室が開催されました。あいにくの雨で気をもんだのですが、テントの中、子ども達は「汽車型エンピツ立て」作りを楽しみました。
生野区は私の地元です。区民になって間もないのですが、生野区での木工教室は初めてで、トラブルがあつてはならないと心配でした。区の方やふくてっくスタッフの協力により、合点がつけられる結となりました。

わずか1時間程の木工教室でしたが、子ども達は喜んでくれました。また生野区でできればいいなあと思っています。
参加者 杉浦さん・有馬さん・八木八郎さん・池端さん・光川(木工部 光川環代)



キッズプラザ

キッズプラザでは定期的「手づくり木工ひろば」が行われ、ふくてっくの木工部がスタッフとして参加してきましたが、2月29日(日)、昨年の秋以来久々の開催です。
作品を何にするのか早くから考えていましたが、悩みに悩んでやっと1月の半ば過ぎに「お散歩犬」に決まりました。当日は2時間前からスタッフが集まり、前日までの下準備に手間

を惜しまなかったこともあり、満足のいく作品となりました。さっそく子ども達は館内を出来上がった「お散歩犬」でお散歩していました。
準備は大変ですが、様々な人の協力があり、多くの人から喜ばれるこの活動が私の生きがいとなってきています。
参加者 有馬さん・中北満さん・原田さん・長岩さん・葛西さん・光川
*読売新聞から取材があり3月4日の朝刊に載りました(木工部 光川環代)



◆エフ・エー◆
3月28日(日)NPOエフ・エー主催の木工教室が阿倍野区の大長ハウスさんでありました。この木工教室は恒例となつていますが、回を重ねるごとに大長ハウスさんからの材料提供が立派になり、今回は本棚・机・イスといった「家具」作りに親子で取り組んでいました。後にエフ・エーさん宛に参加者からお礼状が届き、それをふくてっくにいただきました。子どもさんが書かれたイラスト入りのお手紙です。
参加者 瀧澤さん池端さん・原田さん・原田さんの甥の方・光川(木工部 光川環代)